

情報連絡員報告・5月分

製造業、非製造業ともに売上高DIが改善

～売上が増加するも、原材料の値上げにより収益にはつながらず～

<東京都中央会>

5月の情報連絡員報告によると、製造業・非製造業ともに売上高のDI（前年同月比）が改善（製造業13.8ポイント、非製造業5.8ポイント）した。しかし、収益状況のDIはほぼ前月と変わらず、原油の高騰を原因とする原材料の値上げが中小企業の収益を悪化させている苦しい現状に変化はない。要望事項として政府による原材料の価格上昇に対する歯止めを望む声がよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

「食料品」

- ・量や単価よりもヘルシーでローカロリーの弁当が人気。

「繊維・同製品」

- ・原材料の上昇を価格に転嫁できず、利益率は悪化している。
- ・クールビズの導入で業界では来年の夏物生産への不安が高まっている。

「木材・木製品」

- ・4月よりはやや持ち直しといえるが、先行きの不透明感はまだ強い。仕事量は昨年並みにあり、不況感は薄らいでいるか。

「窯業・土石製品」

- ・値戻し活動に各都道府県支部が取り組んでいるが、成果はあがっていない。鉄筋の値上げ要請もあり、原材料は少しずつ値上がりしている。

「化学ゴム」

- ・昨年にタイヤの値上げがあり、16年度のメーカーの売上・収益とも好決算であった。一方、小売店は値上げ分の利益がとれず、利益率が下がってきた。
- ・原料の高騰はやや落ち着きを見せ始めたが、世界的な品薄感から2次、3次の値上げが予想され、売上げが増加しても収益にはならない。中小企業では体力勝負のような景況である。

「鉄鋼・金属」

- ・自動車関連、工作機械、造船が好調で生産は日を追って回復している。材料入荷量が絞られたために材料の動向をにらみながら、製品価格是正の気運はひろがる見通しである。

「電気機器」

- ・例年よりも操業度が低かった。資材の値上げは需要の低調もあり、一服の感もあるが高止まりしている。

「卸売業」

- ・原油価格上昇による製品価格への転嫁は需要低迷をうけ、進んでいない。
- ・販売価格は上昇するも仕入れ価格の上昇が上回るため、収益状況は悪化している。

「小売業」

- ・気温の低い日が多く、消費が低迷している。全国的にも前年比で5%ダウン

との報告もある。特に国産大豆の高騰を商品に転嫁できず苦しい状態にある。

- ・石油価格の動向から目が離せない。石油価格の値上がりから石油製品の値上げまでのスパンが最近非常に短い。

＜要望事項欄より＞

- * 政府により、石油製品を主とする原材料の価格上昇に歯止めをかけてほしい。 [繊維・同製品]

- * 国産大豆が安定的に供給されるよう国産大豆の増産策を実現してほしい。

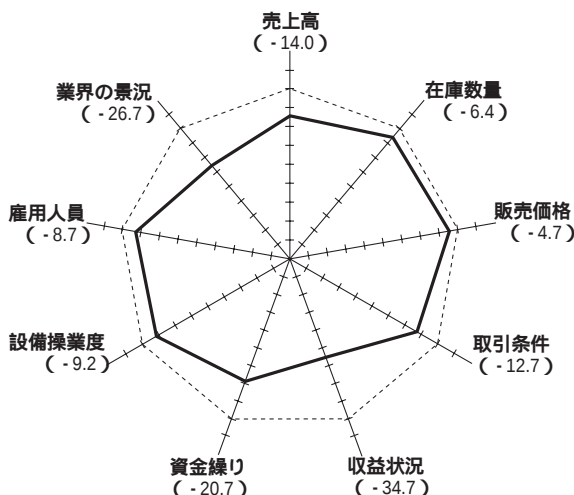
[小売業]

- * 一日も早く公的規制として「資源採取禁止条例」を制定してほしい。

[サービス業]

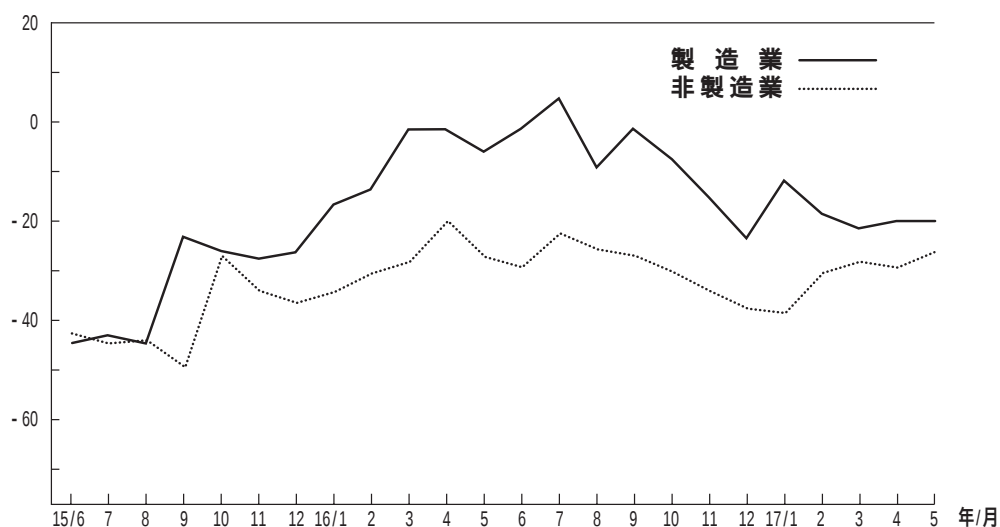
- * 排出ガス規制に対応する資金の調達を支援してほしい。 [運輸業]

5月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

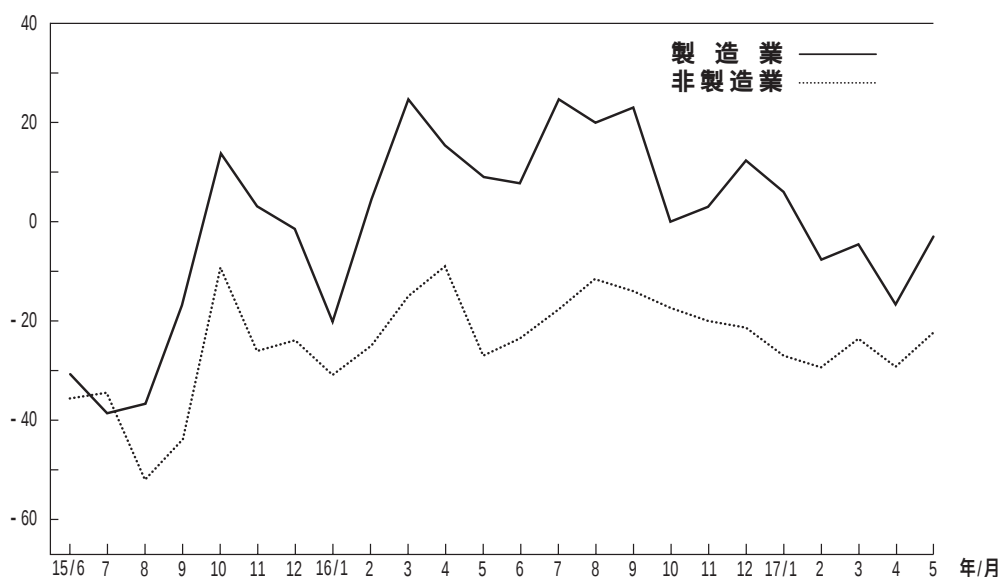


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H15.6～H17.5）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H15.6～H17.5）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。